

木戸衛一さんと“いま”をご一緒に考えましょう！
戦後ドイツの平和意識を考える
—〈悲しむ能力の欠如〉の克服によせて—



●2014年11月3日「憲法集会」で講演「ナチス独裁成立前夜のドイツと現在の日本」をされる木戸衛一さん。

木戸衛一さんは昨年11月3日の「憲法集会」において、ドイツの過去を論じつつ、日本の今を鋭く感銘深く話されました。今回はその姉妹編ともいべきテーマです。切り口の鋭さと思索の深さを味わって下さい。

ドイツにおいては「ナチスの過去に対する反省」を論じる時、「悲しむ能力の欠如」という言葉が登場します。「ドイツ人は本当にナチスの過去」を反省しているのか、と吟味の刃を向けたとき、そこには、戦後の経済繁栄に酔いしれ、ナチス時代の悲惨さを忘れていた事象があり、そのことを悲しむこともできない大衆心理が横たわっていました。こうして、ナチスの過去への反省を欠くドイツ人に対し、「悲しむ能力の欠如」と断じる言論が登場してきます。

そこには日本人の「過去の反省」や「戦後の平和意識」のあり様をも、改めて考え直してみる視点と方向が浮かび上がってきます。

日時：**4月18日(土) 13:30~**

会場：**京都教育文化センター・101号室**

京都市左京区聖護院川原町4-13 Tel:075-771-4221

講演：**木戸衛一さん**

(大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授)

参加費：500円

※なお、公開講座終了後、15:00から同会場で非核の会第29回定期総会を開催いたします。会員以外の方の定期総会への傍聴を歓迎します(無料です)。

《木戸衛一さんのプロフィール》

1957年千葉県柏市生。1981年東京外国語大学ドイツ語学科卒業、同大学修士課程を経て、1983年一橋大学大学院社会学研究科博士課程で学び、1988年同大学社会学部助手、1990年大阪大学教養部専任講師、1994年同大学大学院国際公共政策研究科助教授(2007年同准教授)。2000~01年ライプツィヒ大学政治学科客員教授。2008年ベルリン自由大学で学位取得。専門は現代ドイツ政治・平和研究。憲法9条京都の会世話人。